

阿波国 すきま 漫遊記

— 関東からの転入者による徳島再発見 —

VOL.9 野猿と索道

野猿と索道

東祖谷山に「観光野猿（やえん）」というものがあるのをご存知だろうか？

谷にケーブルを渡して駕籠を吊り下げたロープウェイのような乗り物だ。河川の下流部で渡し舟が使われるように、山間部の橋のない場所で作られたのが野猿である。残念ながら生活で使われている野猿は県内には現存しない。おそらく全国にも残っていないであろう。そこで今回は現代に残る野猿とも言える「索道（さくどう）」を紹介しようと思う。

索道は林業の木材の搬出などに使う運搬装置だ。県内では傾斜地の農地から作物を搬出したり、山腹の人家に生活物資を運び上げたりするために使われている。今回は索道の中でも特に川を渡る目的で設置された物件に着目してみた。

トバシ

一般に索道は主索というケーブルにカゴをつり下げ、曳索という細いケーブルでカゴを引き動かす。しかし、より原始的な索道には、傾斜のついた主索一本しかなく、滑車に直接荷物を吊り下げて自重で滑り降る「トバシ」というタイプがあった。当然、荷物は

■神山町・相原草臣さん宅の索道

ウインチが瓦葺きの納屋に納まっている。最近補修したそうで以前はもっと太めの主索を使っていたという。形式は複線交走式。中規模ながら見事な索道だ。



■トバシに使われる滑車
「チリキ」とも呼ばれる滑車。切れ込みがありケーブルから外せるようになっている。これは小型のもの。



■鮎喰川のトバシ
中央を左右に横切っているケーブルがそれ。カゴやウインチ等の設備がないのでトバシを発見するのは容易ではない。

複線往復式

一方通行。荷解き場で取り外した滑車は荷積み場まで人が運び上げた。トバシは構造が単純なので、荷物が途中でケーブルから脱線することも多かったという。



■上勝町で見かけた往復式索道
曳索をけん引するウインチが見当たらなかった。人力でけん引しているのだろうか。



■吉野川市で見かけた往復式索道
索道は重機が入れないような場所に作ることが多い。人力だけで設置する技術も継承がむずかしくなっている。



■吉野川市で見かけた往復式索道
支柱も大掛かりで主索も太い雄大な索道。索道で 200kg 以上の荷物を運ぶには林業架線作業主任者の資格が必要。

複線交走式

索道を使うには両端で荷受けと荷積みしなければならないから、たくさん

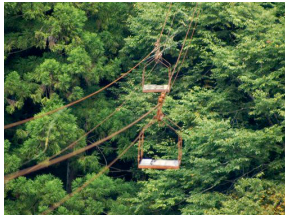
交互に動かしたほうが時間の節約になる。観光地のロープウェイはみなこの形式だ。これを交走式という。畑から農作物を出荷するような場所では交走式の索道が使われる。



■神山町・小川博行さん
索道を実際に動かしてみせてくれた。2年前に家まで車道が開通し、索道を動かすのは久しぶりという。



■交走式のケーブル
黒っぽい太いケーブルが主索で固定されている。茶色の細いケーブルが曳索。曳索は循環式になっている。



■交走式索道の運行
対岸は遠くて声は届かないので、荷積みが終わったらケーブルを叩いてウインチ側に合図を送っていた。

索道は本来は荷物専用であり、人間が乗ってはいけないことになっている。しかし立や台風で川が増水して渡れないときは、カゴに乗って川を渡ることもあったという。
人間の交通手段としての野猿はもはや観光地で見ることができない。いま残っている荷物の索道も、道路の整備と山間部の過疎化のために遠くからず消えてゆく運命だろう。それは生活が便利になることだから否定はできないが、徳島らしい風景がまたひとつ消えるのだと思うと淋しくもある。